

## 国際的マスギャザリングに対応したワクチンの予防接種

マスギャザリングとは特定の期間に特定の場所に大勢の人々が集まることをいいます。日本では2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。世界中から多数の選手、ボランティア、観戦者が集まることにより国際的なマスギャザリングとなるため、国内では流行していない感染症が海外から持ち込まれる可能性や、国内で流行している感染症に海外からの参加者が感染してしまう可能性があります。

一般財団法人日本感染症学会ホームページ内の「症状からアプローチするインバウンド感染症への対応～東京2020大会にむけて～感染症クイック・リファレンス」では、国際的マスギャザリングに対応したワクチンとして、事前に受けておきたいワクチンと患者発生時に緊急的に接種を考慮するワクチンが紹介されています。

事前に受けておきたいワクチンには麻しん風しん混合 (MR) ワクチン、髄膜炎菌ワクチン (4価結合体髄膜炎菌ワクチン)、A型肝炎ワクチン、B型肝炎ワクチン、水痘ワクチン、おたふくかぜ (流行性耳下腺炎、ムンプス) ワクチン、インフルエンザワクチンの7種が挙げられ、積極的に推奨すべき対象者、接種を検討すべき対象者、接種を検討すべき理由、推奨接種スケジュール、接種に際し注意すべき点が記載されています。

定期接種と任意接種の接種間隔は生ワクチンと不活化ワクチン・トキソイドでは異なることから、本稿ではワクチンの種類と接種間隔についてまとめました。

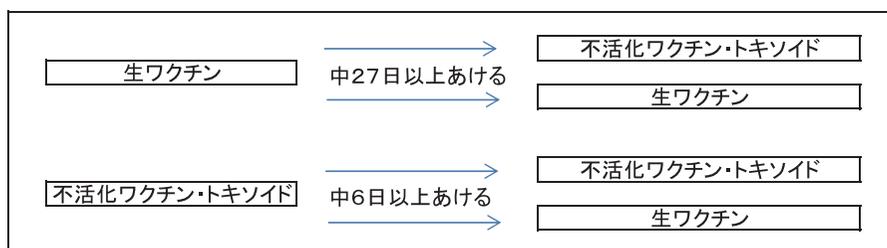
あらかじめ混合されていない2種類以上のワクチンを接種する場合には、不活化ワクチン・トキソイド接種後は、通常中6日以上 (1週間以上) の間隔をあげ、生ワクチン接種後は、中27日以上 (4週間以上) の間隔をあげます。ただし、医師が特に必要と認めた場合には同時に (接種部位は別々に) 接種を行うことができます。日本小児科学会からは同時接種に対する考え方が示されています。

表1 国際的マスギャザリングに関連したワクチン(事前に受けておきたいワクチン)の種類・商品名・用法・用量

ワクチン	種類	接種	商品名 (製薬メーカー)	回数	間隔	摂取量	方法
麻疹風疹混合 (MR)ワクチン	生ワクチン	定期接種 (A類疾病)	ミールピック® (田辺三菱製薬)	・未接種者は2回 ・1回接種者は、 あと1回 ・ワクチン接種 歴不明者は最 低1回	最低4週間以上空ける	0.5mL	皮下
			乾燥弱毒生麻しん 風しん混合ワクチン (武田薬品工業)				
			はしか風しん 混合生ワクチン (第一三共)				
髄膜炎菌ワクチン (4価結合体髄膜炎菌ワクチン)	不活化ワクチン・ トキソイド	任意接種	メナクトラ®筋注 (サノフィ)	1回(接種対象者: 2歳以上55歳以下)	-	0.5mL	筋肉内
A型肝炎ワクチン	不活化ワクチン・ トキソイド	任意接種	エイムゲン® (MeijiSeikaファルマ)	3回	2-4週間隔で2回接種, さらに初回接種後24週 経過後に1回追加接種	各0.5mL	皮下又は 筋肉内
B型肝炎ワクチン	不活化ワクチン・ トキソイド	定期接種 (A類疾病)	ビームゲン®注 (MeijiSeikaファルマ)	3回	4週間隔で2回接種, さ らに初回接種後20~24 週経過後に1回追加接種	各0.25mL (10歳以上 の者は 各0.5mL)	皮下(10歳 以上の者は 筋肉内も可)
			ヘプタバックス®- (MSD)				
水痘ワクチン	生ワクチン	定期接種 (A類疾病)	乾燥弱毒生 水痘ワクチン (武田薬品工業) (田辺三菱製薬)	2回	・13歳以上では4週間以 上の間隔をあげる。 ・13歳未満では、3カ月 以上の接種間隔を推 奨する	各0.5mL	皮下
おたふくかぜ (流行性耳下腺 炎, ムンプス) ワクチン	生ワクチン	任意接種	おたふくかぜ 生ワクチン (第一三共)	2回	最低4週間の間隔をあげる	各0.5mL	皮下
			乾燥弱毒生おたふく かぜワクチン (武田薬品工業)				

インフルエンザワクチンは割愛。詳細は日本感染症学会のホームページを参照

表2 複数の予防接種を受ける場合の接種間隔



参考文献：2017(平成29年)予防接種に関するQ&A集 一般財団法人 日本ワクチン産業協会  
「国際的マスギャザリングに関連したワクチン」日本感染症学会ホームページ  
<http://www.kansensho.or.jp/ref/vaccine.html>

(鹿児島市医師会病院薬剤部 高橋 武士)